FUYO LEASE GROUP

2026 年 10 月 30 日

News Release

芙蓉総合リース株式会社
（コード番号：8424 東証プライム）
代表取締役社長 織田 寛明

系統用蓄電池プロジェクト「非常時地域開放型蓄電所」商業運転開始のお知らせ（茨城県 笠間市）

芙蓉総合リース株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 織田 寛明、以下「芙蓉リース」）は、茨城県笠間市に建設した「非常時地域開放型蓄電所※」（以下「本蓄電所」）が、2026 年 10 月 30 日に商業運転を開始したことをお知らせいたします。

※平常時は系統用蓄電池として運用し、災害時には地域へ電力を供給する機能を備えた蓄電所

本蓄電所には、定格出力 2MW、定格容量 8MWh の高圧系統用リチウムイオン蓄電池が設置されております。運転開始後は、設備保有者である芙蓉リース、アグリゲーターを担う株式会社東芝、蓄電所の保守メンテナンスを担う東京電設サービス株式会社の 3 社が連携し、「非常時地域開放型蓄電所」の運用を行ってまいります。

なお、本蓄電所は、笠間市（市長 山口 伸樹）と東電タウンプランニング株式会社（東京都港区、代表取締役社長 鈴木 祐輔）と締結した系統用蓄電池の設置と同設備からの非常災害時における電力提供に関する協定に基づき、官民連携で運営してまいります。

＜案件概要＞

○事業場所：茨城県笠間市民体育館（拠点避難所）隣接地
○運転開始時期：2026 年 10 月 30 日
○設備規模：高圧（出力：2MW、容量：8MWh）

<事業の特色>

系統用蓄電所を拠点避難所の近傍に建設し、通常は蓄電事業者が電力市場での取引による充放電を行い、電力が広域・長期停電するような非常災害時には、蓄電池内の電力を拠点避難所に無償提供して非常用電源として活用するものです。

また、系統用蓄電所は、再エネ電源が多い地域では、その地産地消や発電抑制の回避などに貢献すると期待され、笠間市はそうした地域にも相当します。

<2026 年 10 月 30 日 竣工式写真>



芙蓉リースグループは 2022 年度からスタートした中期経営計画「Fuyo Shared Value 2026」において、ＣＳＶ（Creating Shared Value：共有価値の創造）の実践を通じた社会課題の解決と経済価値の同時実現により、企業グループとしての持続的な成長を目指しております。

また、「エネルギー環境」を経営資源を集中投下する成長ドライバーのひとつに位置付け、多様なエネルギー関連事業を国内外で展開し、脱炭素社会の実現に貢献するビジネスに取り組んでいます。電力需給の安定化と再エネの主力電源化に向けて必要不可欠な新たなビジネスモデルである系統用蓄電池事業に積極的に取り組むことで、ビジネス領域の拡大と豊かな社会の実現に貢献してまいります。

以上

お問い合わせ先
芙蓉総合リース株式会社　コーポレートコミュニケーション室　(担当) 渡邊
電話番号：03（5275）8891　URL：https://www.fgl.co.jp/